

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200572
法人名	株式会社 大慈会
事業所名	グループホーム さくらの家
所在地	福岡県福岡市西区福重1丁目5-13
自己評価作成日	平成23年8月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月24日	評価結果確定日	平成23年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設者自身の強い思いの下、自分の親を介護するにはどのような介護を期待し実行できるか理念に落とし込んだ上で実行している。家で生活を基盤にし、自宅内外共々どのようにすれば過ごしやすく、幸せに送れるかを試行錯誤しながら、日々模索していきながら今の状況を形作った。家の周りには、四季折々の花が充満しており、さくらを中心に花壇も年中足を止めて伺うような作りとし、家の中では、利用者が、家族として日々安心して普通に過ごすような環境を作っている。これは、利用者家族にも年数を重ねるごとに伝わっていき、従業員と家族との信頼関係の構築が、現在のさくらの「家」の基礎となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

永年、教職を務めた代表者の教え子により設計された暮らしの空間は、各所に細やかな配慮と工夫が施されており、開設して11年目を迎え、少しずつ増えた敷地内の桜の木は、今は15本にまでなっている。理念の一つとして「介護のプロとしての冷静さと、家族としての温かさを。」と掲げられており、「さくらの家」の印象と重なり、その実践を窺い知ることができる。管理者により様々な視点から独自の資料が作成され、職員に常に問いかけ、ひもときながら、思考の整理や気づきへとつなげられ、利用者本位の暮らしを具現化している。間もなく1ユニットの中で3番目となる紀寿のお祝いがあり、個人個人の尊厳や暮らしの質を大切にしながら、残存機能の維持、活用に向けて、さり気ない関わりが行われている。日常の普通の暮らしの中で、利用者の心に寄り添い、家族や地域との自然な関係性を積み重ね、一日一日を大切にしたい暮らしの営みがある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、運営者と管理者他関連スタッフにより独自の理念が創られています。又、その理念を元に、利用者・家族・職員すべてが共有しながら生活していける環境を作っています。	職員採用時や運営推進会議の中で、理念に基づく方向性について説明を行い、関係者間での共有を図っている。年2回程行われる代表者との個人面談の際にも、日々の行動についてや、専門職としての自己研鑽について、確認が行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域住民のボランティア参加による繋がりや、町内会への活動参加などさまざまな取組に参加しています。(隣組の様な自然な関係づくり)	地域住民や団体の方々との、日常の中での自然な「近所付き合い」が生まれ、庭先の清掃を手伝ってくれたり、多くの子供たちと家族によるハンドベル演奏や手話ダンスが披露されたこともある。学生実習からリーダー研修、管理者研修まで、幅広く研修を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉を志す未経験の実習や実践者等の研修を多く受入れ、福岡の福祉レベルの向上のお役に立てる様に心掛けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	色んな形態での地域との交流に努めてきたが、今後は、出来る限り多くの地域の連携に役立てられるように計画している。	運営推進会議は、家族代表、地域住民代表、民生員、地域包括支援センター職員、法人代表、管理者、職員の参加にて開催されている。	自然な形で地域とのかかわりや、有意義な会議開催を目指した経緯もあり、現状としては定期開催には至っていない。新たな試みも始まっており、今後の展開に期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や区役所の担当者とできるだけこまめな情報交換を行い、臨機応変に対応ができるよう準備を進めている。	認知症実践者研修・リーダー研修、管理者研修等の受け入れを行っている。運営推進会議では、ホームの「さくらだより」を活用した情報発信について、意見を頂いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「家」での生活に関わる中で、ささいな身体拘束につながる状況を作らないよう、毎月の身体拘束廃止委員会にて確認を行い、従業員すべてが理解しながら取り組んでいる。	毎月、身体拘束廃止委員会の中で、日常の振り返りと確認を行っている。弊害やリスクについては、家族への理解も育みながら、思いを共にし、利用者の心を抑制しないことを常に念頭においている。医師との連携により薬による抑制についてや、排泄ケアとの関連による周辺症状にも意識を持ち取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議において、高齢者虐待防止関連法についての勉強会を開催し、従業員に理解を深めて頂くこと、グループホーム協議会や市町村主催の研修会へ参加し、その内容を書面を使いながら従業員へ伝えていく。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な会議において、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を開催し、従業員に理解を深めて頂くことと、グループホーム協議会や市町村主催の研修会へ参加し、その内容を書面を使いながら全職員へ伝えている。	権利擁護に関する制度については、入居時や必要時に、家族等への説明を行っている。制度活用の必要性についての検討や、実際に支援を行った実績もあり、外部研修への参加や、内部での伝達を図りながら、理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、代表自ら家族への説明を行い、十分な理解・納得を図り、疑問がある場合は、そのつど解りやすく説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まず家族自身が訪れやすい環境作り注意到、来訪時には、ゆっくりとしたつづぎの時間の中から、家族とのコミュニケーションを図り、意見の出やすい状況を作っている。又、さまざまな家族他からの意見も、会議において運営に落とし込んでいく。	家族へは、入居時に週1回以上の来訪を呼びかけ、日頃から関係性を密にしている。また、開設記念日には家族会を開催する等、コミュニケーションの充実に努めている。重要事項説明書の苦情受付フローには、全体での検討を行い、内容及び解決方法について掲示することが明記されている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議による提案及び定期的なアンケートの実施、代表者・管理者との個別面談の開催などにより、職員からさまざまな意見・提案がしやすいような環境作りに取り組んでいる。	定例会議や随時のミーティング等にて、活発な意見交換が行われている。また、定期的なアンケート調査や、代表者との個人面談の機会を設け、意見の表出の機会を確保している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者とでの細かな刷り合わせを行い、職員全員がやりがいや向上心を持って働いていける職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢などを考慮するのではなく、事業所理念に思いを同じにできる方を選考対象としている。又、職員についても働きやすい環境づくりに十分配慮し、資格取得の奨励やさまざまな研修会への参加を促している。	職員の採用にあたっては、理念を基にした方向性を共有できる方を求め、年齢や性別による排除は行わないようにしている。職員の主体的なかかわりを大切に、管理者による日常のかつ実践的なOJTが行われている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会において、虐待・拘束などの問題を取り上げ、検討会議を行い、職員への意識を高めている。	永年、教職を務める代表者により、グローバルな見地からも人権意識を高めている。管理者は、独自の資料をもとに、実践の哲学や倫理観、メンタルケア等についてを職員に伝え、個々の気づきを導いている。	

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量・状況を確認しながら、さまざまな勉強会・研修会への参加を促している。又、毎月の会議において勉強会を開催し、質の向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同業者との交流の機会を作り、お互いの情報交換の場としている。又、研修生の受入れを行うことにより、お互いが切磋琢磨できる環境づくりを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階にて、何度も本人・家族との面会の機会を持ち、お互いの関係作りに努めている。又、その後、体験入居を行って頂き、馴染みの関係・環境を構築していく努力を行っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居前に、お互いの人間関係の構築がもっとも重要であるため、家族が安心できる状況になるまで何度でも打合せを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階にて、管理者・ケアマネ共々ゆっくりと話ができる時間を作り、十分なアセスメントを行い、本人・家族が本当に必要としている状態把握に努め、提案できる体制としている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の心に感じられる努力を日々行いながら、対応を心がけている。「家」の中で自分の親と生活しているという理念を常に感じながら、共に生活する関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者を家族として捉え対応している事を続ける事で、徐々に家族との関係も義理の兄弟の様な共に支えている家族の関係である事が理解できてきたように考える。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や趣味・趣向をできるかぎり把握し、馴染みの人との繋がりが途切れないよう連絡を行い、馴染みの場所には、定期的に外出するなど取り組んでいる。	少人数や個別にて、その方にとっての馴染みの場所や買い物に出かけている。法人内の他サービスも活用しながら、お墓参り等にも出かけている。家族とのつながりを重視し、出来る限りの来訪を促している。	

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者一人一人の状態を把握しながら、少し でも利用者同士でコミュニケーションが取 れるように声かけ・対応を行っている。食事 時は、必ずスタッフが同席して食事を 行い、掃除や洗濯たたみなどをみんな で取り組む関係作りに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所の理念でもある 家族という考 えから、一度繋がりができた関係性は、一生 であるとの思いより、どのような相談・支援 にも対応する。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	各利用者より希望・思いを受け取り、その希 望に沿ったケアを心がける事で「家族の代 わり」としての役割ができるように努めてい る。又、会議でも主旨一環して伝えている。	その日の希望や状況、展開にあわせて、柔 軟な対応を心掛けている。センター方式の活 用も含め、生活暦やライフスタイルの把握に 努め、思いや意向、潜在的ニーズの把握に つなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	過去のすべての状況が、現在のその人を作 り上げていると思われるので、その方の生 活歴・暮らし方・生活環境を把握する事に常 に意識して取り組んでいる。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの日々の状態は、つねづ ね変化していくので、日々の記録把握、伝 達ノート共有、報・連・想によりスタッフ間で の現状把握に努めるように指導している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人・家族の意向を反映しながら、管理者・ ケアマネ・スタッフすべてが関わりながらプ ラン作りを行えるようにしている。	本人、家族の意向を踏まえ、関係者間での 協議を行い、介護計画を作成している。定期 的なモニタリングを実施し、変化や必要に応 じた見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しなが ら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入方法や書式などを職員間 での話し合いにより改善している。又、毎月 の会議内での話し合いにも生かしている。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令遵守の範囲内で本人と家族の状況を十二分に把握し優先しながら、出来る限り柔軟な対応に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢化により減少していく人間関係を補てんするためにも、スタッフや他の入居者の家族との関係は勿論、いろんなボランティア等の受入れを行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の入居前のかかりつけ医を主治医としている。又、希望時には、近隣の病院や往診専門ドクターを紹介している。各利用者の身体状況や医療に関する事は、すぐにドクターへ確認し、対応を行っている。	本人、家族の意向による、これまでのかかりつけ医との関係性を重視し、基本的には変更をしない。地域の協力医療機関との連携を図り、24時間対応できる体制を整備している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師スタッフと相談しながら環境を整備しつつ、協力医師の支援を最大限に受けられるような体制作りをしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供など医療機関との連携を密に行えるよう、事前の関係作りを大事にする。又、ドクターとの連絡を密に行い、できるだけ早期に退院できるようにしている。すべてにおいて事前の関係作りが重要。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設に入所された時より、つねに重度化の可能性や現状の変化について話をしています。家族にとって、会う回数が少ないほど、変化によるダメージが強いからです。又、できる・できない医療行為についてのしっかりと説明を行い、急な誤解が生まれないようにしております。	これまでに終末期に寄り添った経緯もあり、早い段階から家族との話し合いを重ね、意向確認や方針の共有を図っている。開設して11年目を迎え、長期に入居されている方も多く、個人の尊重や生活の質の確保等を心におきながら、「今」を大切に積み重ねていけるようサポートを行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	GH内の研修によって定期的に訓練を行っている。又、緊急時の連絡方法及び対応マニュアルを書面化して、つねに目につくところへ掲示している。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間数回の消防訓練によるシュミレーションを行っている。又、災害時に近隣との協力体制が確保できるよう、近隣住民との関わりを大事にしている。	昼夜を想定した年2回の避難訓練は、事前に近隣住民に案内され実施されている。水害時の連携について話し合いが行われる等、地域との協力体制の構築に向けた取り組みがある。リビングから直接避難できるようスロープが増設され、今年度は、自主的にスプリンクラーを設置予定としている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社会人の常識として、どのような方々も尊敬の念と慈愛の気持ちを忘れない対応を心がける事を周知徹底している。	排泄ケアや入浴時には特に留意し、利用者の尊厳を損ねない対応や声かけとなるよう周知している。記録や伝達時にも、プライバシーの保持への細やかな配慮が行われている。居室間にあえて死角を設け、ベンチを配置する等、プライバシー空間への視点が確保された設計となっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思を尊重できるような対応作りを行っている。(例:ご飯は、自由な時間に、入浴も入りたい気持ちになった時)		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	つね日頃より優先順位の一番は、利用者のしたい事にあてている。その事が、ゆっくりではあるが定着できてきたと思われる。業務は、あくまでも介護側の考えである事。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あくまでGHは家でもあるが、リビングへ出る時には、そのまま外への外出が出来る様な(個人の嗜好にあった)服装でのコーディネート心掛けている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事予定表を作らず、日々の利用者の状況や利用者の嗜好・楽しみを把握できるように会話に取り組みながら、できるだけその日の本人の意向に沿うよう対応している。	状況や嗜好、栄養バランス等に配慮しながら、その日のメニューを決めている。個々人のペースや生活リズムにあわせて、ゆっくりとした食事風景と柔軟な対応が行われており、食後の余韻も味わっている。時には、ピザの宅配や仕出し弁当を活用し、「食」を楽しんでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスの他にも各個人の日々の時間や状態に応じた対応を行っている。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は、誤嚥、肺炎防止など大変重要なものであるため、個人個人にあった対応を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃の記録や表情の変化などの細かな点を観察し、個人個人にあった自然な排泄リズムでの生活に向けた支援を心掛けている。	排泄ケアと周辺症状の関連性にも注視し、個別の状況やパターン、間隔の把握に努め、トイレでの排泄や声かけの工夫を行っている。利用者の尊厳や快適な日常を重視し、さり気ない声かけが行われている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響については、GH内での研修や外部講習での勉強会にて把握し、会議にて対策を検討しております。そこでの結果をもとに個々に応じた対応を行い、できるだけ薬に頼らないように努力している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者本人の希望を最優先にて対応している。ご本人が、いかに楽しく喜んで浴室に足を運んで頂けるかを考察しながら、本人が気持ちよく入浴して頂けるタイミングにて行っている。	希望や状況にあわせて、夜間も含めた柔軟な対応が行われている。入浴を拒否される場合にも、無理強いせず、様々な視点から工夫や検討、判断を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活ベースを最大限に把握し、本人の状況を確認しながら無理のない生活ができるようにサポートしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各スタッフへは、用法用量の把握をして頂いたうえで、体調などの変化に応じ主治医との連絡等日々の状況に即した対応を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や御本人(家族を含む)の話の中から日々を一層輝かせる趣味や役割を見つけ状況に応じた対応を心掛けている。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物・ドライブなどは、その日の体調や状態をしっかりと把握したうえで、できるだけ本人の希望に添えるような対応を行っている。</p>	<p>日々の状況や会話の中での希望等にあわせて、柔軟な対応に努めている。法人内の他サービスも活用しながら、お墓参りや馴染みの場所へ出掛けている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族との相談のうえ、各利用者それぞれに応じた対応が出来ている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>出来る事は出来る限りご本人の選択として行えるよう家族と協力しながら対応している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設間のないように気を配った作りとなっており、昔ながらの日本家屋を意識している。照明の配置他すべてにおいてこだわった作りとなっております。</p>	<p>室内は、木の温もりのある日本家屋の趣と、床暖房やトイレのシャワー設備等の機能性を兼ね備えた空間となっている。廊下は天窓や居室の障子からも自然光が届き、作り付けの手摺もこだわりの仕様となっている。玄関前はオープンガーデンとなっており、さくらの木を中心として、代表者や学生ボランティアにより、季節の花木が彩りをみせている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>館内の数箇所(居室と居室の間等)に適度な死角となるベンチを設置していたり、椅子意外にも畳やソファなど気分に合わせて選べる環境作りをしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的に、施設側からの既存のものではなく、本人の馴染みある家具等を使って頂き、家族や本人と相談しながら本人にとって一番居心地の良いような空間作りに努めています。</p>	<p>畳敷き、フローリングの居室が用意されている。廊下に面して障子窓が設けられ、採光や換気にも有効となっている。使い慣れた家具や大切な品、必要な物等が配置され、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>さり気ない手すりの設置や廊下の板張りを横向きにして滑りにくくしたり、危険になる物の排除、そして細かな配慮で自然な状態のトイレや浴室など出来る限り安全かつ普通に過ごせるように心がけている。</p>		